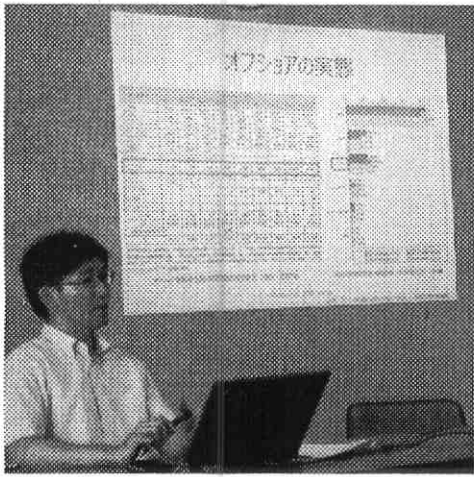


ベトナムにおけるオフショア開発

青梅—IT事業者協同組合が講演会

西多摩やその近隣のIT関連事業者7社で構成する青梅IT事業者協同組合(菊池一夫理事長)は7月17日、ベトナムへのオフショア開発を実現させているITC(昭島市)グ



ループのインフォクラスター・古川浩規社長を講師に「ベトナムにおけるオフショア開発の最新事業」と題した講演会を開催。関係者ら13人が参加した。

オフショア開発とは、システムやソフトウェア開発を海外の事業者や海外子会社等に委託して海外で開発すること。講演では「人口は現在

約9300万人。実質GDPは5.4%。進出口系企業は約1300社。労働力の平均年齢は28・9歳」とベトナムの概況から解説し、「二輪や四輪、携帯電話、ネット環境も普及しており、消費動向から新しいもの好きなどの国民性が見える」と説明した。

開発の実態についてはベトナム国内のエンジニア数や転職率、学生の習熟度、開発言語などにも触れ、「基本は異文化コミュニケーション。必要十分な情報伝達、目標の明確化、イニシアチブの取り方などが解決策となり、

顔が見える付き合いが大切」と指南した。

古川氏は、開発の基本姿勢や相場、法人の設立方法などのほか、「ベトナムは国策としてIT産業を育成しており、日本からのオフショアはホットトピックとして扱われている。技術者のレベル向上などの期待」と締めくくった。